

天然力を活用した低コスト 造林技術の普及に向けた取組

目 標

天然力を活用した更新技術の確立に向け、保育技術を検証し民有林での低コスト造林技術の普及を目指す。

取組内容

【表層土壌堆積箇所の調査(継続)】

天然力を活用した低コスト造林技術となりうる表土ふり落とし箇所、表層土壌堆積箇所において、成長量について調査を実施。

天然更新試験地において、通常の地拵箇所、表土ふり落とし箇所、表層土壌堆積箇所の本数及び樹高について比較調査を実施。



表層土壌堆積箇所

【雪害への取り組み(継続)】

朱鞠内地域における造林地全般において、積雪に起因すると考えられる倒伏・歪み・幹折れ等の植栽木が多くみられる。

コンテナ苗の植栽と併せた低コスト造林を進める上で、寒冷・多雪地域における植栽方法の検証を引き続き行うことが必要であることから、当該地域のアカエゾマツ造林地に自動撮影カメラを設置し、積雪状況観測を実施。

(実施期間:R2年11月~R3年5月 撮影:2枚/日 13:30 13:35)



自動撮影カメラによる
造林地の積雪状況

【相互交流見学会の開催(継続)】

幌加内地域における森林づくりの取組や、技術交流、知見を共有し、意見交換を行うことを目的として北大雨龍研究林・幌加内町・当支署の3者による相互見学を10月22日(北大雨龍研究林)、10月29日(国有林)に開催。

北大雨龍研究林では、筋押し表土戻し・カンバ除伐、表土戻し天然更新地、ミズナラ樹冠掻き起こし地、カラマツ天然更新試験地、埋土種子コントロール試験地を見学。国有林では表土戻し地拵え及びコンテナ苗植栽箇所を見学し意見交換を実施。



表土戻し地拵及び
コンテナ苗植栽地見学

結果

今年度の成長量調査では、通常の地拵箇所と比較し、表土ふり落とし箇所の本数は1.2倍、樹高は1.7倍。表層土壌堆積箇所の本数は2.4倍、樹高は2.2倍と調査結果となった。

通常の地拵えと比較し、天然更新における優位性を再確認した。

昨年の積雪量は、例年とほぼ同様であったが、近隣アメダス地点との比較では、柔雪時期においては約5%程度の増で、堅雪時期については10%程度の増となっていた。

そのため、堅雪時期の植栽木は、沈降圧等のストレスが柔雪時期に比べ、過多となっていると考えられ、引き続き、データを蓄積し、原因解明に向け調査を行っていく予定。

北大雨龍研究林の各試験地や国有林の施業地について、相互見学し意見交換を行った。

当支署で実施している表土戻し地拵えについて、北大雨龍研究林の成果等を踏まえ、今後も相互交流見学会などの場を通じ、助言を受けながら調査等を継続していく。

また、表土戻し地拵えについては、取組成果を技術交流発表会でポスター発表を予定している。

今年度の総括 次年度の予定

- 表層土壌堆積箇所・表土ふり落とし箇所ともに、通常の地拵えと比較し、優位性を確認する調査結果となった。調査及びデータ蓄積を継続し、今後、ササ地における天然更新など、どのような施業を実行していくか検討する。
- 雪害への取組では、柔雪時期と堅雪時期とでは、積雪量について差がある結果となった。今後は、植栽木の倒伏・歪み・幹折れ等の被害木について調査継続し、積雪量との因果関係を解明できるようデータを蓄積していく。
- 相互交流見学会は、天然更新や表土戻し地拵えなど課題を共有し、各種取組について技術交流や意見交換を行い、知見を共有した。今後、課題解決など森林づくりについて、北大雨龍研究林・幌加内町と3者で相互交流見学会を継続する。